

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中国の堅調な需要や米政権交代の進展、COVID-19 ワクチンの期待により上昇基調
- ・ 11月30日は2013年3月以来の高値となる\$7,674.50

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSIG)の11月23日発表によると、2020年1～8月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～8月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	13,360	13,471	-0.8%	20,223
地金生産	16,076	15,893	+1.2%	24,434
地金消費	16,369	16,195	+1.1%	24,486
需給バランス	-293	-302		-52

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率
鉱石生産	1,114	1,093	+1.9%
地金生産	6,524	6,420	+1.6%
地金消費	9,338	8,298	+12.5%

(出典) 国際銅研究会

3. 供給障害

- ◆ ルンディン・マイニング、ストライキ終了でカンデラリア銅鉱山の操業を再開(チリ)

ルンディン・マイニング(加)は、カンデラリア銅鉱山(チリ)の労働組合がストライキを終了したため、同鉱山の操業再開を計画していることを11月27日に発表した。カンデラリア銅鉱山ではカンデラリア銅山労働組合(約350人)とカンデラリアAOS組合(約550人)が賃金交渉をめぐってストライキを実施、組合員による暴力行為なども発生し、10月20日より操業を停止していたが、約1か月の操業停止の後、交渉が合意に達し、両組合はストライキを終了した。同鉱山の権益保有比率はルンディン・マイニング 80%、住友金属鉱山 16%、住友商事 4%。2019年は11.1万tの銅を生産している。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

11月4日	11月9日	11月12日	11月17日	11月24日	11月26日
750	760	770	780	790	810

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	130,767 t	-0.4%	+9.3%
出荷	133,854 t	-8.9%	+12.9%
在庫	97,349 t	-2.7%	+0.7%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の増加となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は4か月連続の増加。内訳は内販が前月比19.8%増、前年同月比9.5%減の7.3万tで、それぞれ2か月連続の増加と16か月連続の減少。輸出は前月比29.0%減、前年同月比59.6%増の6.1万tで、それぞれ6か月ぶりの減少と11か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比8.0%減の4.7万tで13か月連続の減少、伸銅品向けは8.5%減の2.3万tで19か月連続の減少。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は10か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

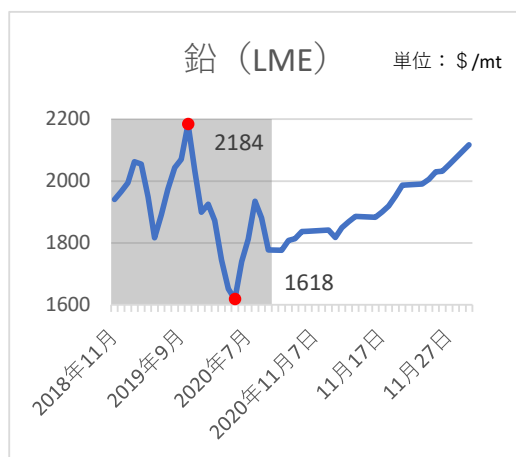
(一社)日本電線工業会によると、2020年10月の銅電線出荷は前年同月2019年10月比7.8%減の5.6万t(推定)と13か月連続で減少した。うち内需は前年同月比7.3%減の5.5万tで9か月連続の減少、輸出は30.7%減の900tで10か月連続の減少。内需の部門別では、自動車が7か月ぶりの増加、通信が3か月ぶり、電力が4か月連続、電気機械が2か月ぶり、建設・電販が9か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年10月の伸銅品生産は前年同月2019年10月比6.0%減の5.9万t(速報)と23か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比2.5%増で6か月ぶりの増加。自動車端子向けの黄銅条は3.5%減で21か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は1.3%増で6か月ぶりの増加。エアコン向けの銅管は7.5%減で9か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中国の堅調な需要などにより上昇基調
- ・ 11月30日は2019年11月以来の高値となる\$2,117.50

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の11月23日発表によると、2020年1～9月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～9月の世界の鉛需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	3,258	3,464	-5.9%	4,501
地金生産	8,484	8,951	-5.2%	11,661
地金消費	8,298	9,008	-7.9%	11,385
需給バランス	+186	-57		+276

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率
鉱石生産	1,400	1,426	-1.8%
精鉱輸入	559	698	-20.0%
地金生産	3,464	3,538	-2.1%
地金輸入	26	108	-75.6%
地金消費	3,496	3,594	-2.7%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

11月2日	11月10日	11月17日	11月25日
252	255	261	270

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	17,050 t	+0.9%	-6.0%
出荷	17,957 t	-6.2%	-5.0%
在庫	19,626 t	-4.8%	+4.3%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月ぶりの減少となった。出荷は前月比、前年同月比ともに減少。前年同月比は内販の減少により3か月ぶりの減少となった。在庫は前月比は減少、前年同月比は増加。前年同月比は6か月連続の増加となった。

3. 需要部門動向

9月の自動車生産台数は前年同月比1.0%減の82.1万台となり12か月連続で前年同月を下回った。また、二輪車生産台数は前年同月比21.0%減の4.2万台となり、8か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会によると、9月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で201.3万個(前年同月比2%減)と12か月連続で減少、自動車用以外の鉛蓄電池も40.8万個(17%減)と8か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は242.1万個(5%減)と12か月連続で減少した。

鉛関連製品生産統計(2020年9月分=令和2年9月分)

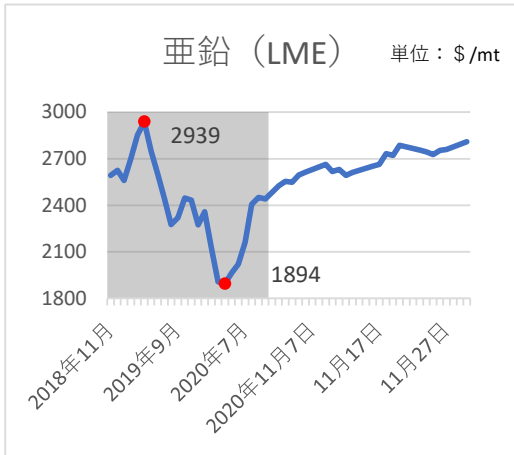
	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
自動車	820,708台	+47.5%	-1.0%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	15,479 t	+31.3%	-5.2%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中国の堅調な需要や南アの鉱山閉鎖などにより上昇基調
- ・ 11月30日は2019年5月以来の高値となる\$2,809.50

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の11月23日発表によると、2020年1～9月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～9月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	8,886	9,557	-7.0%	12,329
地金生産	9,977	9,935	+0.4%	13,597
地金消費	9,540	10,132	-5.8%	12,977
需給バランス	+437	-197		+620

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率
鉱石生産	3,036	3,134	-3.1%
精鉱輸入	1,412	1,066	+32.5%
地金生産	4,546	4,453	+2.1%
地金輸入	332	436	-23.8%
地金消費	4,811	4,797	+0.3%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

3. 供給障害

◆ VZI、落盤事故でガムスバーグ亜鉛鉱山の操業を停止(南ア)

ベダント(英)子会社のベダント・ジンク・インターナショナル(南ア)は、11月17日にガムスバーグ亜鉛鉱山(南ア)で落盤事故が発生し、操業を停止したことを発表した。この事故により10名の作業員が閉じ込められたが、その内8名が救出された。操業再開時期は未定となっている。ガムスバーグ亜鉛鉱山は2019年初頭に操業を開始、年間25万t(物量ベース)の亜鉛精鉱の生産能力を持っている。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

11月2日	11月6日	11月11日	11月16日	11月19日	11月25日
316	322	331	328	340	343

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	45,854 t	+2.6%	-2.6%
出荷	46,154 t	+2.3%	+10.2%
在庫	66,638 t	-0.4%	+1.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が3か月連続の増加、前年同月比は3か月ぶりの減少となった。出荷は内販の増加により前月比は4か月連続の増加。前年同月比は輸出の増加により2か月ぶりの増加となった。在庫は前月比は減少、前年同月比は増加。前年同月比は14か月連続の増加となった。

3. 需要部門動向

9月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比26.4%減の59.5万tとなり12か月連続で前年同月を下回った。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年9月の伸銅品生産は前年同月比18.2%減の50,186t(確報値)と22か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が16.6%減の6,359tで20か月連続の減少。黄銅棒が16.3%減の11,768tで8か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年9月分=令和2年9月分)

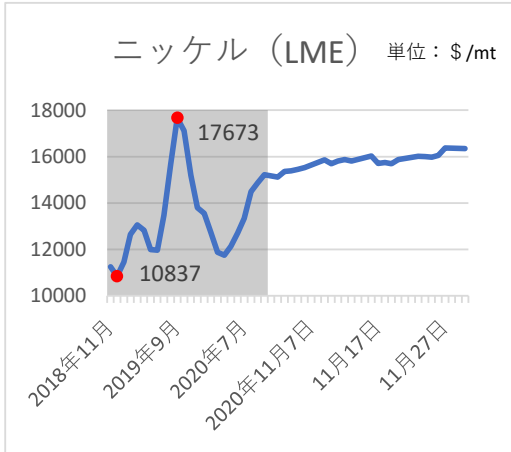
	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
亜鉛めっき鋼板	595千 t	+0.9%	-26.4%
黄銅製品	20,360 t	+38.4%	-18.0%
亜鉛ダイカスト	1,536 t	+105.0%	+4.0%
酸化亜鉛(亜鉛華)	3,105 t	+80.3%	-43.2%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- 前月から引き続き、中国の堅調な需要などにより上昇基調、\$15,000 台から \$16,000 台に推移

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の 11 月 19 日発表によると、2020 年 1～9 月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～9月の世界のニッケル需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率	2020年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	1,731	1,874	-7.6%	2,352
地金生産	1,801	1,765	+2.1%	2,436
地金消費	1,692	1,802	-6.1%	2,318
需給バランス	+109	-37		+117

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～9月 実績	2019年1～9月 実績	増減率
鉱石生産	76	78	-2.7%
地金生産	538	605	-11.1%
地金消費	990	986	+0.4%

(出典) 国際ニッケル研究会

【国内】

1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	4,601 t	-1.5%	-17.5%
出荷	6,245 t	+22.5%	+18.3%
在庫	5,767 t	-22.2%	-16.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比、前年同月比ともに2か月連続の減少。出荷は前月比、前年同月比ともに2か月連続の増加。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比29.4%減で6か月連続の減少となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は6か月ぶりの減少となった。

2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

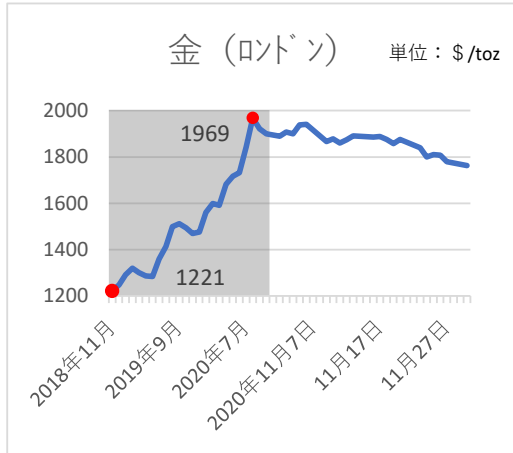
	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	3,154 t	+53.0%	-30.2%
出荷	2,927 t	-17.1%	-1.8%
在庫	6,816 t	+3.4%	-15.0%

(出典)日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は8か月連続の減少。出荷は前月比が4か月ぶりの減少、前年同月比が10か月連続の減少。在庫は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は27か月ぶりの減少となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ 依然として高水準であるものの、COVID-19 ワクチンの期待などにより下落基調
- ・ 11月30日は6月以来の安値となる\$1,762.55

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

11月2日	11月4日	11月5日	11月6日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日
6,347	6,425	6,423	6,497	6,525	6,340	6,376	6,348
11月13日	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日	11月24日	11月25日
6,371	6,401	6,370	6,318	6,272	6,255	6,182	6,112
11月26日	11月27日	11月30日					
6,103	6,084	5,980					

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年10月分=令和2年10月分)

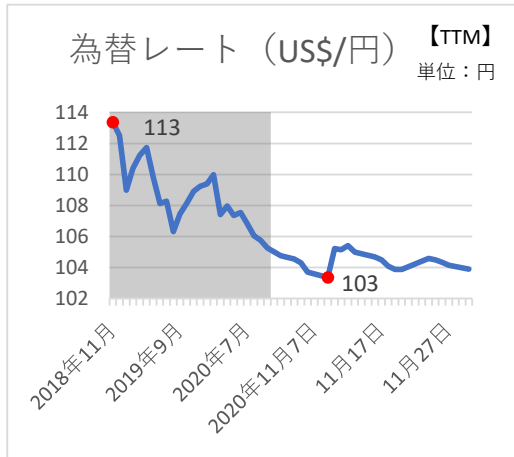
	2020年10月	2020年9月比	2019年10月比
生産	9,081kg	-1.6%	-0.3%
出荷	9,342kg	+0.1%	-7.2%
在庫	3,752kg	-6.5%	-17.7%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月ぶりの減少となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は3か月ぶりの減少となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は7か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



- ・ 前月から引き続き前半は \$1=104 円台から 103 円台に下落基調
- ・ 11月10日は COVID-19 ワクチン報道で約 2 円上昇

(2018年11月～2020年10月の値は月平均)